

Save The Tropical Forests

# ウ・タ・

Hutan

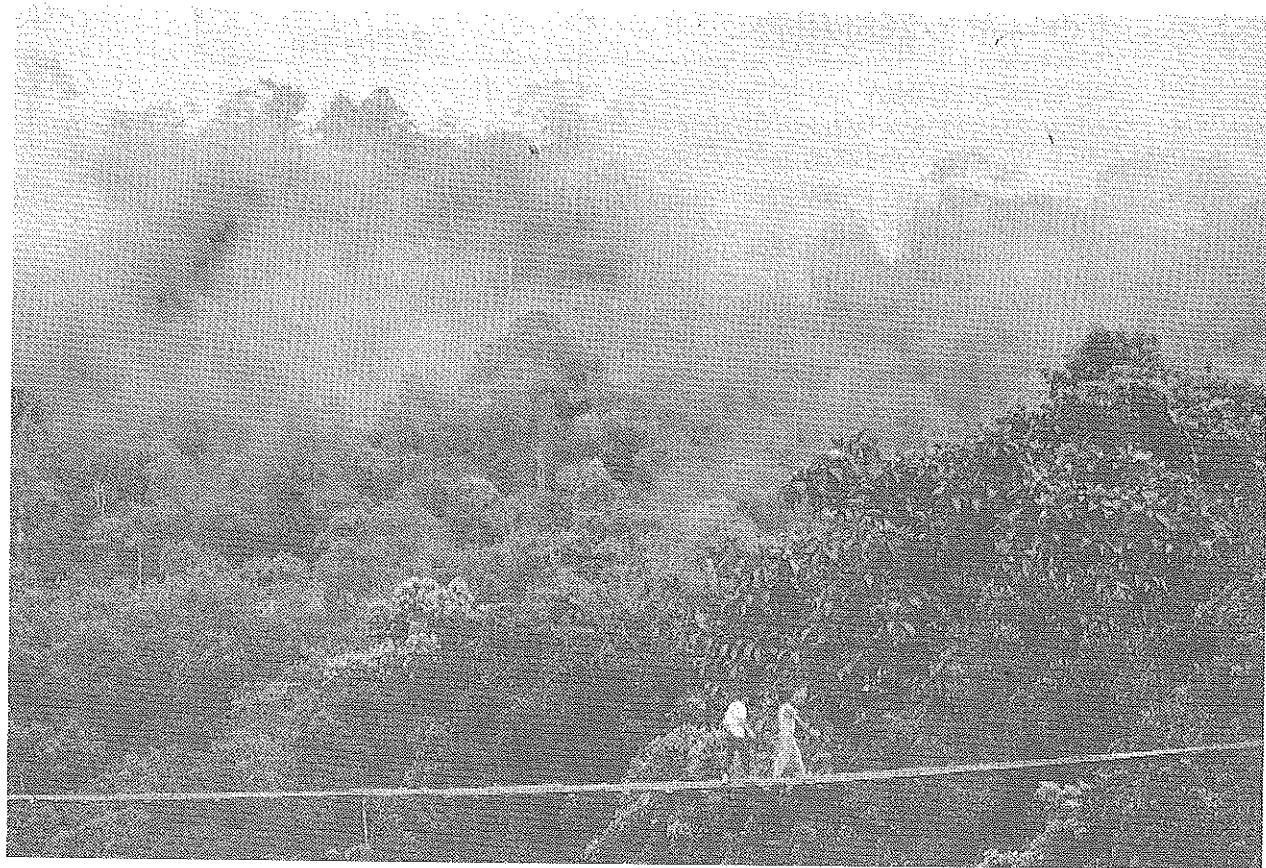
46

森の通信

1998.1.27

◆ **森林破壊とCO<sub>2</sub>問題** - COP3を終えて特集 -

◆ 寄稿 「環境NGO-これからの地球を守るもの」 京都会議が私達に教えたこと



SARAWAK ◆ 森は呼吸する。朝の空気は身震いするほど冷たく新鮮だ。そして、水、動植物、安らぎと、生命に必要なもの全てを与えてくれる。

[photo & ward] 鯨 隆一 [環境ライター]

- 3 ..... ウータン'98年 年頭ごあいさつ 事務局長・西岡良夫
- 4 ..... 環境NGO、これからの地球を守るもの、京都会議が私達に教えたこと・猪俣栄一
- 7 ..... COP3 12月7日 森林問題シンポジウム 報告・西岡良夫
- 10 ..... 世界の森から「インドネシア森林火災-オイルパームの功罪」川上園子
- 11 ..... 世界の森から「サラワク先住民裁判、ロシア」
- 12 ..... パプアニューギニア 緊急救援キャンペーン
- 13 ..... サラワク・スタディーツアー「あつい播けに泣けたせサラワク」 荒木琢磨
- 16 ..... 山からの便りⅡ「炭焼き百姓はあまろいなあ〜」百姓の巻・市井晴也
- 19 ..... 会計報告 '97年度、会計より
- 20 ..... ウータン アクションスケジュール、ホム人ヲ!

[おまわり] 今号は COP3を終えての記事を多く使ったので  
粟田さんの「サラワ森林……」と「フリマからの……」  
はお休みします。

## ウータン活動報告

'97.9月~12月

- 9・23 ウータン45号発行
- 9・27 大阪YWCAの「ソロモン島伐採問題報告」に参加/西岡、奥村
- 10・2 関西熱帯木材使用削減委員会(以下「削減委」と略)、ゼネコン・アンケート記者会見
- 10・4 ウータン、「サラワク・スタディーツアー報告会」催す
- 10・6 「削減委」全体会議
- 10・10 「削減委」住宅部会、アンケート締切・まとめ
- 10・11 関西地球環境NGOネットワーク「COP3成功に向け 50日前行動 in Osaka # まったなし! 地球温暖化 #」集会で、西岡が「森林破壊が気候変動の一因、やる気が必要」と発言
- 10・15 「削減委」家具部会、アンケート締切・まとめ
- 10・26 「削減委」、最終報告会『熱帯林を守るために』公共事業・家具・住宅を問う  
講師・熊崎実氏、「森林破壊が温暖化をより進めている」と指摘
- 10・28 ウータン、COP3へむけた森林問題シンポを京都で開催を決め、呼びかける
- 11・6 出前講演\*瓜破東小学校
- 11・6 ウータン、大阪府、門真市と熱帯材・環境保全策で話し合い。大阪府は削減進む
- 11・16 COP3(気候変動枠組み条約第3回締結国会議)への「気候フォーラム」運営委員会に参加
- 11・29 日本弁護士連「地球温暖化防止にむけてシンポ〜やればできる地球サバイバル」に参加
- 11・30 気候フォーラムの「国際NGO会議」に参加
- 12・7 ウータン、熱帯林きょうと、JANNI等で「森林破壊が温暖化を加速させる」シンポ開催
- 12・7 気候フォーラム主催「京都で決めよう!市民大行動」に参加
- 12・10 ウータン等17団体で、COP3への「気候変動と森林問題に関する声明」を発表
- 12・11 COP3、2010年の先進国のCO<sub>2</sub>等温室効果ガス削減目標5.2%で議定書採択。排出量から森林吸収分を引く「ネット方式」や「共同実施」を認める。気候フォーラム等声明表明
- 12・13 ウータン、合宿
- 12・21 削減委全体会議
- 12・22 ウータン、98年以降国際キャンペーンへの取組み決める

◎この冊子は再生紙を使用しています。

【表紙】新草木染(古紙40%)

【中紙】バガス(55kg、非木材紙50%、古紙35%)

◇'98年です。今年もウータン がんばります! ヨロシク。◇



## 今年も森林破壊とCO<sub>2</sub>問題、国際的キャンペーンや!

~実行と楽しさと優しさと誇りのウータンに~

事務局長・西岡良夫

関西熱帯木材使用削減委員会が終わるや、今度は12月にCOP3(気候変動枠組み第3回締結国会議)京都会議で、連日のようなしんどさ。削減委の講師・熊崎美さんにインパクトを受け、徳島の猪俣さんやJATANの小倉さんに「おケツ」をたたかれ、年末の合宿で出たいろいろな話は...

### 【12月13日・合宿での話アラカルト】

- A: いつもやったら「連続講座」など一年の企画を最初の話題やつたが、みなで何をしたいか、前回の会議で出たけど、他には。
- B: 「熱帯林連続講座」しても行動につながれへんのが不満。設定方法も問題あり。託児もないのでは親たちも来ない。
- C: 京都会議を振り返り、日本のNGO弱すぎる。それにもっとアクション打たなあかん。国際的な行動になってない。
- D: そおね、ロビー活動なども不足と思う。今後は、森林破壊とCO<sub>2</sub>問題を注目するとか。
- E: そや、CO<sub>2</sub>問題は重要やで。今年はこれを中心にしたほうがええんちゃう。
- A: 例えばロシアの原生林破壊問題の調査とキャンペーン、サラワク・インドネシアのアブラヤシ開発のキャンペーンを中心にし、今の自治体キャンペーン中心型を変える。
- B: インターネット時代で、求む翻訳チームよ。
- F: 自治体問題も必要でしょ。建築抑制や長寿命化の建築の方法を、大阪府下中心に問う。自治体キャンペーンは今後も継続で進める。
- G: 国内問題では林業地との付き合い。まず交流からで枝打族、大阪府下の森林組合などと。
- H: 誰でも参加出来る、企画班に加われるようにする。計画まだやし、僕も加わりたい。
- I: 愛です。人類愛・生物愛です。
- J: 家具キャンペーンは、まだ調査事項が多いから、今新たに参加してもらう人も出来る。
- G: 枝打族や森林組合への交流も初めての人でも出来る。講座等の企画も初めてでもOK。
- I: 今年は、森林破壊等の国際キャンペーンと、森林破壊とCO<sub>2</sub>問題? (一同そやそや!)

### 〈98年、ウータンや個人でしたいこと・実施することのテーマを列挙〉

#### 〔アクション一般〕

- \*熱帯林等連続講座---アクションにつながる
- \*家具問題---廃棄、ラベル、流通問題等
- \*自治体キャンペーン どちらも継続必要
- \*建築抑制 環境基本計画や総枠削減、代替材
- \*森林開発等の反対
- \*CO<sub>2</sub>や化石燃料問題 今まで国内の削減
- \*プランテーション問題 活動が主で、海
- \*ロビー活動 外交流少なく、
- \*国際連帯 2~3年で海外状況が一変

#### 〔アクション広報・啓発〕

- \*講座活動---出前講座、連続講座でもっと森林問題等をPRしていく
- \*ウータン・リーフレットの改訂版作製
- \*写真パネルの補充
- \*アクションへのよびかけ
- \*会報/通信について---特集版の作製は
- \*小冊子の作製---財源面は?

#### 〔調査・情報収集〕

- \*世界の森林把握 これらは情報収集
- \*世界レベルでの森林破壊 が先、行動は葉
- \*世界銀行等の問題 書, FAX, e-mail
- \*国内森林問題---商業用針葉樹林、広葉樹、枝打族、植林のありかた

#### 〔実務問題〕

- \*集会等の託児
- \*財政---新たに賛助会員制度やカンパ活動等
- \*会員確保、人集め
- \*商品開発/販売拡大、ウータンのPR強化

てな合宿でしたが、浪速(なみさ)友(とも)あれ、明けましておめでとございます。本年もよろしく。今年も、相手に理解してもらおう自治体キャンペーンを行い、新たにはCO<sub>2</sub>問題と森林破壊問題、森林開発反対国際キャンペーン等を行いたい。実行と楽しさと優しさと誇りのウータンにしたい。

## 環境NGO — これからの地球を守るもの — — 京都会議が私達に教えたこと — C O P 3

### 猪俣栄一

【いのまたえいいち・徳島熱帯林問題研究所座長】



#### ◎ はじめに

地球温暖化防止京都会議は、我が国はじまって以来の大規模な国際会議であり、ごく近未来の地球の命運を占う環境会議として、マスコミ報道もかつてない力の入れようであった。だが中身の方は事前に危惧されていた通り、議長国日本の頼りなさ、アメリカの横車、それに地球環境問題すら旧態依然とした外交交渉の手法を駆使して、自国の有利な結果に持ち込むことしか考えなかった国々の露骨な国益主義によって、単なる経済会議と変わらない中途半端な結末に終わってしまった。

だが悲観ばかりもしてられない。その中から少しでも意義のあった点や、逆に人類の愚かしさを見つめるのに役立った問題点を拾い上げて、今後の森林保護活動の一助としたい。

#### ◎ ネット方式の矛盾

この会議で馬鹿げていることのひとつがアメリカが固執したネット方式である。これは、今後排出されるCO<sub>2</sub>の量を削減しようという従来の考え方とは逆に、既に大気中に出てしまっているCO<sub>2</sub>を減少させようという考え方で、方向性そのものは結構なのだが、提案の内容は、新たに植林した樹木に吸収され固定されるCO<sub>2</sub>の量を、削減量としてカウントしようという呆れた話なのである。

では何が呆れた話なのかを考えてみよう。現在問題視されているCO<sub>2</sub>の大部分は、化石燃料を燃やすことによって発生しているのだが、その際CO<sub>2</sub>だけでなく窒素酸化物や硫黄酸化物等、動植物に直接被害を与える有害ガスも出てくるが、それは発生源で大部分を除去できる技術が開発されており、CO<sub>2</sub>だけが現在の技術ではどうにもできないのである。

一方で、大気中に出たCO<sub>2</sub>をまとめて吸収または固定できるのは海洋と緑色植物である。特に森林はCO<sub>2</sub>を固定した部分が木材として利用できる利点がある（註1）。こうしてみると、人類は産業革命以来自分達が撒き散らして来たCO<sub>2</sub>を、自力でどうすることもできずに、植物界の吸収力にオンプするしか能がないことになる。

産業革命が始まった頃の大気中のCO<sub>2</sub>は280ppmと見積られている。それが現在では360ppmと約30%増加し、このままのペースでは2050年には500ppmに達すると予測されている（註2）。だが人類は何の対応手段も持っておらず、情ない話だが、森林や海洋の吸収容量以下に排出量を抑制し、その差だけ現存量が少しずつでも減っていくのを、息をひそめて見守るしか能がないのだ。

にも拘らず、アメリカや日本は、排出量の削減という、唯一自力で出来る努力

をサポート、頼みの綱たる森林の吸収効果を自国の削減量にカウントしようというのであるから、これ程呆れる話は滅多にないと言ったのである。

だからこそ世界中から京都に集まった多数のNGOは、ネットアプローチ方式採択に反対したのである。

### ◎ できない相談のネット方式

ネット方式は何とかアメリカを説得しなかった議長国日本の努力で採択された。しかしこんなことは実施不可能なのだ。

ひと口に森林のCO<sub>2</sub>吸収能力と言っても、樹種や森林のタイプ、林齢等によって千差万別であり、定量的に表すことなど不可能なことは誰にでも判ることだ。

例えば数値として捉えるのに、植林面積で捉えるのか、成長量で捉えるのかということが先ず問題である。面積で設定するとなると、樹種や林齢等の調整が必要だし、また同じ樹種を植えても緯度によって成長量は異なる。また同緯度であっても降雨量、土質その他の条件の差による成長量の違いは大きい。

材積で捉えるにしても、樹木というものは一生の間、毎年同じ速度で成長するものではない。例えば寿命が百年の木も生育環境や樹種によって、連年成長量のカーブはみんな異なる。広葉樹では、成木になると殆ど材積が変らないようになるものもある。

そういう点から、樹木によるCO<sub>2</sub>吸収という事だけを考えると、早生樹種を植えて7~10年程度で皆伐一斉更新するのが最も効率がよいという、製紙会社が大喜びしそうな考え方も出てくることに

なりかねない。

だが、事はそう単純ではない。いくら成長率がよいと言ったところで、胸高直径5センチの高さ3~4メートル位の若齢木と、直径1メートルもある成木とでは、成長率はともかく、成長量つまりCO<sub>2</sub>の固定量については一概に言えない。

### ◎ 炭素循環論のすり替え

更に問題なのは、短伐期で更新した伐採木の使い方である。例えば百年生の木を伐倒して、そのあとへすぐ2年生位の苗木を植えたからと言って、苗木の吸収量が百年生の巨木の代替をすることはできない。バイオ量が違うからである。

一方、その百年生の木の使い方だ。材積の全部を丁寧に加工して百年間使ったとする。その間に百年前に植えた苗木は丁度前生木と同じCO<sub>2</sub>の量を固定し得たのである。そこで百年前と同じように伐採して苗木を植え、百年前に加工した材木を燃やしたとする。その材木が固定していたCO<sub>2</sub>は大気に戻る。後に百年生の材木と苗木が1本残り、これではじめて炭素の循環の収支が釣り合うのである。

だから若木の方がCO<sub>2</sub>の吸収効率が良い等と言って、十年伐期のパルプ用樹種等をいくら植えても、それから製造された紙が十年間、燃やされも腐りもしないという保証は全くない。こういう単純な緑の循環論というのは、炭素の循環の本質を見落し、自分達に課された温暖化ガス排出抑制努力を怠り、何千万年もの昔から行なわれて来た自然の循環を、自分達の都合のよいようにネジ曲げた恥知らずの論理だと言ってよかろう。

## ◎ NGO活動の教訓

一方で私達は、この会議で非常に大切なことを学ぶことができた。それは、地球の未来は馬鹿な役人や政治家達に任せないで、我々自身の手で切り開いて行こうとする世界中のNGO達の旺盛な活動力を、眼の当りにできたことだ。

今迄我が国の環境保護活動家達は、ふたつの欠点を持っていた。ひとつは、極く一部の活動家を除くと、海外のNGOと共同で活動したり、海外での国際会議に出たりという機会に恵まれない故もあって、海外のNGOの活動スタイルを知る機会がなかった。だからややもすると、自分達が活動しているということ自体に満足してしまい、活動の結果についての検証がなおざりにされてしまうきらいが見受けられた。

ところが、今度の会議における海外NGOの活動を見ていると、決して活動そのものに意義を見出すというようなものでなく、ひとつでもふたつでも、とに角具体的成果を勝ち取ることにきわめて貪欲だった。この点は私達が大いに学ぶべきであろう。

もうひとつは、普段の活動面で政治家にタッチすることを汚ながって来た風潮である。おそらく選挙でのお返しを心配してのことであろう。しかし大規模環境破壊は政治によって引き起こされているのだから、この路線は修正が必要だろう。

最近の世界の環境NGOの活動を見ているとその感を深くする。殊に京都会議の直前、ノーベル平和賞を受賞したICBLの成功は、何よりもその強力なロビー活動に負うところが多い。京都会議で

も欧米のNGOの活発なロビー活動は目を眩るものがあった。そういう光景を眼のあたりにした日本のNGOにとっては何よりの勉強になった事だろう。

日本では「環境NGOは政府の敵」という認識を官僚や政治家達から払拭するのは容易なことではない。今回小淵外務大臣が気候フォーラムのブースまで足を運んだのも、「世界環視の中で、後から鉄砲を撃たないでくれ」というお願いの意味にすぎなかった。

ならば後から撃たれない為にも、環境政策の立案や決定には、カナダのように最初からNGOを加えて、国民と共に考える姿勢が政府関係者にこそ必要だろう。何故なら環境破壊の影響は役人と政治家だけが受ける訳ではなく、国民みんなが被害者になるからだ。第一、CO<sub>2</sub>削減は国民全体の協力がなければ達成できないではないか。

そういった視点からも、今後は政策立案者やそれに影響を与え得る政治家達に焦点を絞って、普段からパイプ造りに取り組む方法を考えるべきであろう。

(註1) 樹木の他に、草本類や農作物もCO<sub>2</sub>固定能力を持っているが、それは寿命が短く、かつ極く短期間で分解してしまうので除外する。

(註2) COP3でも使われたIPCCの第2次報告書(1995年)による。単位はppmvである。

# 森林破壊が温暖化を加速させる!

12/7 ◆ CO<sub>2</sub> 20%削減を ◆ 森林問題シンポ (文責・西岡良夫)

12月1日から始まるCOP3(気候変動枠組み第3回締結国会議)京都会議に合わせて、7日に森林問題シンポジウムを開いた。また12月10日、温暖化防止をさらに空洞化にさせる「ネットアプローチ方式」採択に対して、ウータン、熱帯林きようと、オーストラリアの熱帯雨林情報センターなど17団体で声明も発表した。シンポは、当初のゲストから変わったが、各方面から問題提起がなされた。

## 《インドネシア・アブラヤシ開発が大火災の原因》日本インドネシアNGOネットワーク/川上園子さん

「インドネシアでは6月より広範囲の大火災が続いている。WALHI(インドネシアNGO)が被災の救済に動いている。私たちもワルヒに協力している。

特にひどいのは、スマトラ島、カリマンタン島で、推計で火災面積は100万haを越える。ワルヒによれば、アブラヤシの農園開発で80万ha、商業伐採で58万ha、泥炭地からの出火で26万ha、その他を合わせ170万haの森が消滅したという。

しかしインドネシア政府は対策を立てない。

大火災の原因の大半はアブラヤシ農園開発にある。商業用伐採、パルプ会社の乱伐や産業造林が輪をかけている。火災が温暖化を拡げている。インドネシア政府は、「焼畑農民のせい」と言ってきたが、シンガポール、マレーシアに被害が拡大して、やっと認めた。

今後は、①原因を作った企業の開発ライセンスを取り上げること、②汚職、ワイロの構造をかえること、③森林保全の必要性、が重要な課題である」と指摘した。

## 《熱帯林破壊と闘う人々》オーストラリア・熱帯雨林情報センター/アンニヤ・ライトさん

「COP3で、このままの削減の議論では温暖化解決にならないでしょう。だから、ひとりひとり市民が最善の努力を尽くすことと思います。草の根レベルの取組みが必要です。

サラワクでは、喜ばしいニュースもあります。バクン・ダム建設は、先住民の抵抗で停止になりました。希望を捨てないことが大切と思うのです。

ところが、アブラヤシ・プランテーションはここ10数年で急激に進められ、森林破壊を拡大しています。プランテーションに反対する運動があります。97年も42人のイバン人が逮捕されています。その後も弾圧があります。

マレーシアの木材が枯渇し、最大手のRH(リンプナン・ヒジャウ)社はバプア・ニューギニアで伐採プロジェクトを始めています。バプアの人々からも反対を受けています。(バプアで、RH社は採算面、政治問題等で97年9月に伐採一時停止し、WTK社も一部伐採中止)しかし、RH社は世界各国に、アマ

ゾン、ガイアナ、ロシアなどに進出してきています。

私たち雨林情報センターでは、先住民たちが自分なりの経済発展を達成する計画を支援してきました。例えば、バプアではエコ・フォレストリーを支援してきました。私たちは今まで商業伐採に断固反対の立場でしたが、10年前に方向を変えました。オルタナティブなトレードなら、先住民の自立のための、持続的な代替の森を作ろうと考え、実施しています。

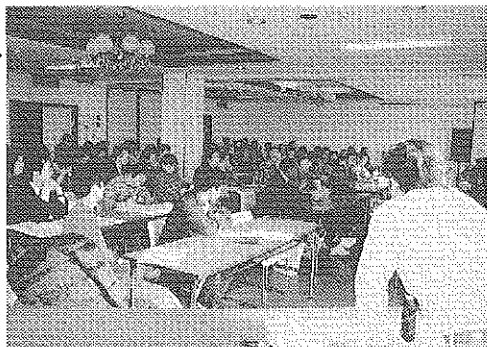
エクアドルでもプロジェクトをしています。エクアドルの森林破壊の元凶は、石油開発です。それに加えて、道路建設で森林破壊が拡がり、入植者が先住民の土地に入って破壊しています。

そこで、クアウラニ地域の先住民と一緒に、森を守る運動を始めました。100万haの森が守れるようになりました。土地区画を決め、政府とも話し合い、土地を買取り、自然保護区を作りました。生物学的、生態学的な研究をできるようにしました。薬草等の研究です。

また、地域内で小規模な水力発電を作り、電

力を自給できるようにしました。また、先住民の定着農業の技術普及にも支援しています。今、石油開発と道路建設という破壊に対し

て、先住民が草の根で自立する動きがあちこちにあります。地球温暖化の防止に、先住民が最先端にたっているのです。



99人の参加でもソッパに集まる



集会後パレードに参加する。



いざばん左がまじめをされた猪俣栄一さん



最終日、NGOブースにて

### 《シベリヤの森林破壊も温暖化を加速》地球の友／ジョシュ・ニューエルさん

「シベリヤの森は今残された世界の22%の面積を占めます。熱帯林以外の面積では半分を占め、50%が原生林です。ロシアのシベリヤ地域や極東地域のタイガ林には、先住民が住み、多種多様な生物が暮らす場所となっています。これらの地域では、土壌や樹木が大量の炭素を固定し、吸収することで温暖化を緩和する働きもしています。

タイガ林は広大ですが、伐採が1970年以降急速に進んでいます。ロシアとなってから、森林管理が全くと言ってよいほど行われていません。多国籍企業が入り、石油開発、貴金属の採掘をするためにも、森林が破壊され、道路開発も進んでいます。三重の開発です。

シベリヤの森は、アマゾンに匹敵するCO<sub>2</sub>吸収に大変貴重なものです。亜寒帯林はCO<sub>2</sub>の吸収について大きな役割をしています。およそCO<sub>2</sub>を炭素換算にすると、約7億トン吸収していると言われています。この原生林を

伐採して、日本をはじめとした諸国へ木材貿易は急増しています。

カナダのグリーンピースのケビン・ジャーデンによると、『大気中に出されるCO<sub>2</sub>など温室効果ガスは、このままではこれから30～50年に50～90%増えるだろう。シベリヤの森は、まばらの森や草地に変わってしまう可能性がある。伐採や火災も増えるだろうし、生態系が破壊され、さらに地球の気候変動を引き起こすことになる』と指摘しています。

タイガ林の北部や北東部では、凍土となっています。凍土の上にある原生林が破壊されると、凍土が沼地となってしまいます。そこからCO<sub>2</sub>やメタンを大量に放出することになります。メタンは、CO<sub>2</sub>の10～20倍で温室化する原因と言われています。今後の具体的行動として、①多くのNGOが集まって、世界銀行、多国間開発銀行、輸出入銀行などの金融機関に、森林開発、石油開発などへの融資停止を申入れる国際的な連帯を行うべきです。



- ②多国籍企業の活動の監視をすることです。  
シベリヤから日本へ合板用の木材を大量に切り出しています。持続可能でない森林経営には抗議することです。
- ③不法伐採、不法取引をやめさせる。これを取り締まらねば、まともな森林管理はない。
- ④木材消費削減が必要です。仮にシベリヤの破壊を止めたとしても、他の森林が伐採されたら、何もなりません」と提言した。



◀左から  
橋本征二さん  
ジョシュニコウエ  
通訳のトムさん  
アンニ・ライトさん  
いし上 園子さん

## 《ネット方式の欺瞞》熱帯林きょうと／

橋本征二さん

「COP3で(ネットアプローチ方式)が採択されるだろう。森林はCO<sub>2</sub>を吸着するが、その量をCO<sub>2</sub>の総排出量から差し引くのは無謀だ。まず調査がなされてない。若木老木、地域によっても、CO<sub>2</sub>の吸収量が異なる。森林のCO<sub>2</sub>吸収量が不正確である(ネットアプローチ方式)を採択するのは、おかしい」と。

## 《自由ある国では、もっとキャンペーンを》

ナイジェリア・地球の友／オロント・ダグラスさん

「ナイジェリア・地球の友は、石油開発計画に反対だ。それにより森林破壊がおき、動植物に悪影響を及ぼしたからだ。自然破壊することは許されない。今、人間は自然と現実から離れた存在になってきている。自然を愛する人々に訴えたい。

1995年、友人の一人であったケン・サロウィルが何の罪もなく逮捕され、殺された。彼は人間として、土地と森を守るために闘ってきた。私は弁護団の一人として闘ってきた。なぜ彼が絞首刑されねばならないのか。

日本などはもっと自由で、いろんなことが出来る。森林破壊反対や多国籍企業へのキャンペーンを、我々よりやりやすい筈だ。ナイジェリアでそれが出来にくいのに闘ってる。

温暖化を進める企業は、とっとと地球から出て行ってほしい。シェルなど石油企業の開発に反対していこう！我々は生命が危ないが、今後も闘います」と飛び入りで報告した。

会場の討論では、JATAN名古屋の平井さんがパプアの飢饉を報告し、オーストラリアのオルガさんが草の根の取組みを話し、最後のまとめは猪俣栄一さんが各提案を述べた。

## ネット方式削減は不正確

★現在の二酸化炭素の炭素換算量の概要★

石油等での放出 +55(±5)億ト/年

土地利用の放出 +16(±7)億ト/年

海洋での吸収 -20(±8)億ト/年

森林・陸上で吸収-19(±12)億ト/年

計 大気へ増加……32(±2)億ト/年

二酸化炭素は化石燃料等の燃焼での放出が約55億トン、土地利用変化で放出が約16億トン(熱帯林破壊等で約16±4億トン放出)。吸収は海洋で約20億トン、北方林などで約19億トンといわれるが、まだ不正確だ。



◀オロント  
ダグラスさん  
がナイジェリア  
の現状を  
報告された。

不満足な議定書採択だったが、得るところも多かった。地球の友、グリーンピース等が共同したロビー活動でゴア副大統領などにあつたこと等だ。日本のNGOも力量つけねばと感じた。

## インドネシア森林火災 オイルパームの功罪

川上園子

日本インドネシアNGOネットワーク

1997年、スマトラ、カリマンタンを中心にインドネシア全土を襲った森林火災は近隣諸国をも巻き込んだ大惨事となった。

しかし、インドネシアで森林火災が起こったのは今回が初めてではない。過去15年のあいだに少なくとも5回の森林火災が発生している。うち1982年の火災が最も被害が大きく、370万ヘクタールの土地（ベルギーとほぼ同面積）が火に覆われた。そして今回、またもやインドネシアを火災が襲った。この間、インドネシア政府が何もしてこなかったのは明らかである。

### オイルパーム・ネポティズム

「森林火災」という言葉から、今回の火災が熱帯の原生雨林を襲ったとイメージした人も多いかも知れない。しかし、火災の多くは木材伐採後に新たな開発を行うための土地で起こっている。焼き払う方が開発コストが安くつくからだ。今回、インドネシア政府は初めて企業176社をリストアップし開発が火災の原因だと認めた。そのリストの内訳を見ると、その75%がオイルパーム（アブラヤシ）プランテーション、16%が紙パルプ用早成樹種プランテーション、9%が移住民のために森林開墾を引き受ける会社となっている。

そしてこうしたプランテーション企業の株主たちの多くは、スハルト大統領側近（インドネシア木材王ボブ・ハッサンやサリム・グループ、バリト・バシフィック・グループ）やスハルト大統領の子供たちによって占められている。スハルト独裁政権下では、こうしたネポティズム（縁故主義）に改革のメスを入れることはなかなかむずかしい。実際、リストアップされた企業に対し十分な措置は採られなかった。

### オイルパーム農園と移住政策

もうひとつインドネシアでオイルパーム農

園を支えているのは、移住政策だ。オイルパーム農園業を推進するために、政府は1986年、オイルパーム農園の新規開発を移住計画と結び付けた方式にすることを義務づけた。この方式では、企業が中核となる農園と搾油工場を持ち、その周囲で移住者が一定面積の農地を与えられオイルパームを栽培することを義務づけられる。そのため、ジャワやバリなど人口過密地域の人々が大量にスマトラ、カリマンタンなどの開拓地に送り込まれている。スマトラ、ムンタウエイ諸島のシブルット島ではこの移住政策とセットになったオイルパーム農園が現在進められようとしているが、その用地面積は7万ヘクタール、島の総面積の3分の1に相当し、この中には保護林も含まれている。これに対し、イギリスの環境NGOであるDown to Earthはシブルット島保護キャンペーンを展開している。

移住したジャワの小農や農園労働者の人々も決して生活が豊かになる保証はないが（むしろ賃金を安く抑えられたり、農業による健康被害などの問題もある）、それ以上に問題なのは、その土地や森林を利用してきた先住民の権利がほぼ無視されていることだ。その怒りはオイルパーム・プランテーションの拡大と比例するように増幅しているようだ。

1996年12月から97年3月にかけて西カリマンタンで起こったダヤク（カリマンタンの先住民の総称）と移住者であるマドゥラ人との対立による暴動も、背景には伐採やプランテーション開発によって森から排除されたダヤクの怒りがある。この暴動によって同地域は一時戒厳令状態となり、隣接するサラワク州は境界線を封鎖、ダヤク、マドゥラ双方の死者は政府発表で500人を超えた。

インドネシアは現在マレーシアに次いで第2位のオイルパーム輸出国である。そして近い将来、マレーシアを抜いて1位になることを国家目標としている。しかしその陰で先住民の権利は奪われ、手っ取り早い開発のために森林火災が起こっているのが現実だ。

スハルトによるネポティズムとオイルパーム熱が終わらない限り、今年も火災と暴動がインドネシアを襲うかもしれない。



## 緊急!! 抗議はがきを! サラワク先住民裁判資金の支援を!

~警察が油ヤシ開発反対住民を撃死・重体・逮捕~

1997年7月、サラワク州でアブラヤシ・プランテーション造成に先住民が反対し、42人が不当な逮捕・弾圧されたのに次ぎ12月19日も別の地区で、アブラヤシ開発反対の先住民イバン人が警察に撃たれ、1人が死亡し、22名が逮捕されている事件がおき、静観に耐えない事態です。

12月の事件は、ミリ省バコン地区スンガイ川のルマ・バンガ(Rumah Bangsa)ロングハウスで、先住民の先祖伝来の土地に、Empresa Sdn. Bhdという企業がブルドーザーでアブラヤシ造成を始めたのです。住民は企業に話し合い・嘆願書を出すも無視され、約300人がバリケードで阻止しようとしてました。そこに警察隊が発砲し、住民を殴打し、逮捕したのです。銃で撃たれた1人 Bnyang ak Gendungさんは病院で治療後死亡し、2人は重傷を負い、多くの人が逮捕されたのです。12月末に釈放となったものの、1月22日に治安裁判所に出頭を命じられています。(1月7日現在)

この銃撃・逮捕事件で逮捕された住民は、警察やアブラヤシ開発会社を相手に訴訟を起こそうとしています。裁判費用や弁護士を雇う費用などなく、裁判資金の支援を求めています。このアブラヤシは日本でも大量に使用し、私たちの暮らしと関係が深いのです。

すでにサラワク・キャンペーン委員会では先住民民族支援金として、裁判資金の依頼を始めています。ウータンとしても協力し、皆さんの協力を求める次第です。ぜひ、支援金を右記の口座へお願いします。(西岡)

2月上旬までに  
70円切手で  
マレーシアへ  
抗議はがきを

ご協力ください!!

### 先住民裁判支援金

送金先:郵便振替口座00150-7-142733

サラワク・キャンペーン委員会

先住民民族支援金 と明記してください

リンブナン・ヒジャウ

## マレーシア・RH社、ロシアでも伐採へ 対日合板用

1997年12月9日、ロシアのハバロフスク地方政府は、極東スクパイ川流域の森林、30万5千haをマレーシアの伐採会社リンブナン・ヒジャウ社に48年もの長期間、安値で伐採地として貸付けることをきめた。同社はスクパイ川からネリマ港への伐採道路も建設予定。

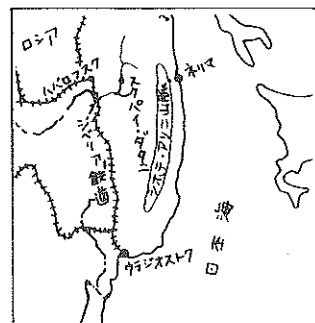
スクパイ川流域のこの地域はハバロフスクの南で、Sikhote-Alin(シホテアリニ)山脈北部(北海道より北西)に位置し、カラマツ、アカマツ林の原生林で、アムール・トラ等を含む幅広い多様な動植物や、先住民が住む森林だ。

リンブナン社が伐採権を獲得したが、許可がおけるまでには何ヶ月かある。出来る限り

の情報収集に努力が必要。RH社はサラワク最大の企業だ。日本に輸入するのに絶好の地で、今後この地域から木材の輸入や大量消費が予想される。

熱帯林を奪い尽くした過ちを繰り返してはいけない。

~情報・インターネット  
Gaia News~  
(奥村知亜子)



# ますます深刻化する干ばつ・霜害の影響！

## パプアニューギニア

# 干ばつ・飢餓

## 緊急救援 キャンペーン

過去100年来で最大級の干ばつと霜害に見舞われたパプアニューギニアでは、人口の約6分の1にあたる70万人近くの人びとが飢餓に直面しています。

その原因は、今世紀最大といわれるエルニーニョ現象と、20年近くも続く日本企業など海外企業による広大な地域の熱帯林伐採だと考えられています。

各地の川や泉が干上がってしまっており、人々は飲料水を得るのに何キロも歩かなくてはなりません。また、汚れた水を飲まざるをえないので、高地・低地ともに皮膚病や下痢、赤痢やペストといった病気も蔓延しはじめています。

日本の製紙会社に皆伐されたゴゴール溪谷では、極端な水不足とタロイモの壊滅的な被害が広がっています。

キャンペーンでは、現地NGOを通じた緊急的な民間援助を実施し、早期に本来の自立した暮らしが住民により再興されることをめざします。

すでに昨年より、現地NGOを通じて被害の深刻な地域へ食料と飲料水を送り始めています。また、食料の苗と種の緊急配布（短期的に収穫可能なトウモロコシ、豆等）も行っています。さらに、雨水貯水タンクの支給と設置、簡易井戸掘りの指導、医療・保険衛生指導等を行っています。



虫の住処になったサツマイモを手にする親子（メンディ）

- ▼6人に一人が生命の危機に直面
- ▼高地で深刻化する食糧事情
- ▼熱帯雨林の伐採地域で深刻化する水問題

**ただいま、緊急救援募金を受付中**

募金・カンパの振込先

郵便振替 00110-4-417309

加入者名 PNG救援キャンペーン

お問い合わせ・連絡先

パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会

辻垣正彦 〒141-0031 品川区西五反田8-10-14-206

TEL03-3492-4245 FAX03-3493-6417

清水靖子 〒166-0003 杉並区高円寺南5-11-35

TEL03-3314-5398 FAX03-3311-6217

日本国際ボランティアセンター（倉川秀明）

〒110-0015 台東区東上野1-20-6-6F TEL03-3834-2388

FAX03-3835-0519

# あつい情けに泣けたぜサラワク

【ウータン】 荒木 琢磨

今回のスタディーツアーは関西セミナーハウスが主催し職員の荒川共生さんの引率で行われた。訪ねたのはマレーシア・サラワク州南西部のインドネシア・カリマンタンとの国境にも近いルボックアントゥ地域のイバン人のロングハウス。有名なダム「バタンアイ」でバスからボートに乗り換え、エンカリー川を8時間遡上したところにある。

このスタディーツアーは、「環境問題」「熱帯林伐採問題」を主眼としたものというよりは、「異文化理解」「多文化共生」がその目的であり、「ロングハウスでのホームステイを通して生活を共にし、友達になり、理解しあっていくことになる」というものだった。

また現地で受け入れ・コーディネートの方を取ってくれたのは、「Society of Christian Service (以下SCS)」のアジャさんで、クリスチャンか否かを問わず、広く先住民のロングハウスの生活向上のためのプロジェクトを行なっておられる。

## たくましくてカッコいい男達

8時間の船旅を案内してくれたのは、5日間私達がお世話になる「ルマ・レンガン」ロングハウスの若い男達。総勢26人の私達とサラワクの他の地域のロングハウスから来た代表者10余名を9艇の細長い船外機付きボートに乗せ、勢いよく出発したもののエンカリー川に入るや否や、降りては船を押し上げ引っ張り上げの繰り返し。最初は元気に押すのを手伝っていた私も、途中からは気力も萎えて押し上げるのを逆に引っ張って邪魔している

ような始末だった。

水量が少ないとはいえ、流れの急な中で見せる彼らの底力は実にものすごいものだった。まず目が行くのは彼らの足。太い腿とその筋肉！！。そして船の先端で竿をさして行くてを操る我等がアーノルド君(22歳位?)の背中を見ればその背筋の盛り上りときたらもう・・・ギリシャ彫刻みたい・・・。

いっしょの船に乗ったYさん(学生・女性)は「これこそ男ですね！」と一言。「じゃあ俺は何？」と言いたかったけど、グッとつまって何も言えなかった。とほほ。

そして彼らは強いばかりでなく、実に温か味のある男達でもあった。途中昼食の為に河原で停泊して彼らが持ってきてくれた弁当。

「どうやって分けんのかな？」と思ってもいない内にパッパッとバナナの葉をナタで切ってきて、みんなに配る自然な心配り。なんて野性的でカッコええ奴等！！。



## 目くるめく歓迎の儀式

私達がルマ・レンガンに着いたのは日も暮れ果てた夜7時頃。河原では出迎えの人達がたくさんいる気配はするが、暗い為によくわからない。インドネシアのガムランのような不思議な不協和音を奏でる鉄琴が鳴り響いている。突然、豚が「ブヒーブヒー」と二声鳴いたと思ったらそれは後で聞いたところではイバンの神様に捧げるお供えの豚を荒川氏と幾人かの男たちでいっしょに槍を持って喉のところに突いたのだそうだ。河原に荷物を上げて坂を上がると、中から蛍光灯の光が洩れ出ている建物が現れる。中に入る前にお米やお菓子を盛ったお皿を一つまみして入り口に撒き、いよいよ中へ。



入ったらその廊下の向こうの端の遠いこと遠いこと！！。これがうわさに聞いたサラワクのロングハウスか！でかい！。

落ち着く隙もなく続くあいさつの踊りはやってきた私達がロングハウスの一戸一戸の戸口の前をまわって踊り、各戸の人達が自家製のお酒をふるまってくれる。一周まわってハウス中心のレンガンさん（このロングハウスのトゥアイ・ルマ（代表者）。）の戸口の前には達するころにはみんな気持ち良くなっている。

廊下にところ狭しと並べられたご馳走を前に、美しく着飾った若い女性達の舞が舞われ、神々への捧げ物がなされる。こんな世界があるのか！。うーん実に美しい！全く現実の事と思えないような、幽玄な薪能を見ているような感じ。

全くもって目がまわるような世界。

## ロングハウスは男社会？

神に捧げる供物はもち米でできた料理とにとりや豚の肉。普段は家畜の肉ではなく、普通のごはんと野菜やたけのこ・川魚の煮物である。

みんなで食べる食事は壮大である。長い廊下に一面に広げられたゴザの上に奥の台所で作られた料理が山盛りに皿に盛られ並べられる。「マカイ！マカイ！」の掛け声は、「食べる食べる」の意味で、ごはんを皿にガバツと盛ってもらって、それからおかずを好きなだけとって食べる。

野菜の煮物には野菜の味、魚の料理には魚の味、それぞれの素材がそれぞれの味を生かして作られていて、実にうまい。いくらでも食べられる。味付けもたんぱくで、日本人好みの食事である。

そして何よりこの食事をうまくしている理由がある。それは、手で食べること！！。私のホームステイ先のホスト役をして下さったピライさんは小柄な体格ながら、一度に手でごはんを取って食べる量が多い。食べ方の技術をこの人から盗んで真似てみると、ぜんぜんお腹がいっぱいになる感覚が来ない。どうしてかというと、手で食べると野性がよみがえるからだ！とわかった。野性的な食事はよく噛んで食べる。物の味をよく味わって食べ

るのだ。唾液も1日1リットル位出ているような感じがする。

ところでこの食事に女性は参加しない。専ら給仕係だ。客がきた時にはずっとこうしてきたのだろう。ほんとにみんなで食べられたらもっともっと楽しかったろうに、と思う。

こんな所にAさん(学生・女性)はとても印象が強かったらしい。彼女はウータンでの報告会でも発表してくれたが、「女性が食事には参加しなかった。女性達はほんとうに嫌がることなく、喜んでそうしてくれていた。ああそういうことなんだなと思った。」とちょっと残念そうに言っていた。確かにそう見えた。でも彼女たちが、食事の後片付けを終えて、やっと残り物を新たに皿に盛って食べている台所に行ってみると、「立ってないで、座わんなさいよ」と声がかかり、僕をねたにみんなで話が始まった。「立つはイバン語でダーダラ。座るはドゥーディリよ。」とか「皿は・・・コップは・・・」と、物の名前で盛り上り、「私の名前をおぼえてる?」「この子の名前は?」と広がっていく。それまでは静かだった女だけの食事もやはり客が来て、話はずむと楽しいのだ。きっと彼女達だってみんなで夕飯をいっしょにしたいに違いないと思う。

### 繰広げられた歌や踊りの交歓

言葉の通じない時にできる事は、歌か踊りかだ。意味はわからず、下手でも、一生懸命顔を真っ赤にして生で歌えば、誰が聞いても緊張感があるから楽しめる。ちょっと普段から目立つ、声の大きな者はすぐに指名がかかる。「えー?なに歌おう?」とか何とか言いつつ、小学校で習ったようなのを短く歌えば十分である。でもOさん(高校教諭・男性)



民族衣装を着がったツァー参加者

の歌はうまかった。合唱団をやっているようで、ノリが良い楽しい曲を歌われた。みんな楽しそうに手拍子で歌い手を盛り上げる。やっぱし、こういう時に芸があると強い!。

もう一つ楽しめる方法は手品だ。簡単なヒモの結び方の手品、ハンカチの手品はちょっとした「どうなんのん、それ?」という緊張感その場を共有空間にしてしまう。

ロングハウスには障害をもった人もいる。ビライさんの妹、クリスティーナさんは盲人であった。僕らが廊下で楽しんでいる時、彼女は部屋の中で手探りでイスとラジオを持ってきて、ちょっと大きめの音で聞いている。僕が何か探しに入っていくと、遠慮して片付けてくれてしまった。そんな彼女に、指にからんだヒモがほどけていく手品をかけたなら「こそばゆいわ。」とか言いながら、楽しんでくれていた。横で「今こうなってんのよ。」とか友達の女性が説明してくれて、みんなが楽しかったのだ。

クリスティーナさんは別の時に部屋に入っていくと、今度は僕達が寝ていた居間を掃除してくれていた。目は見えないのだが、勝手知ったる自分の家である。ほんとうにこころねの優しい、思いやり深い人だなあと、「ありがとう」を言うと、恥ずかしそうにはにかんでおられた。

[つづく]



## ②「百姓の巻」

H. ICHII 市井晴也

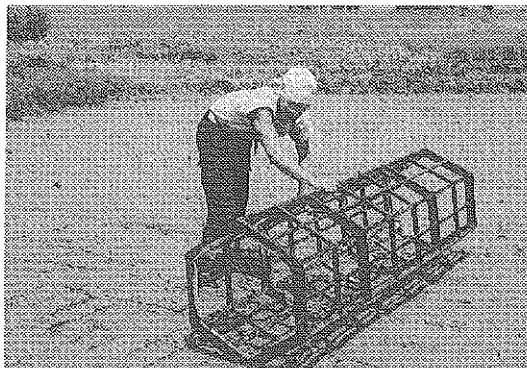
### ■お米づくり

農業、炭焼きと自然には逆らえない暮らしは自然に合わせる姿勢を教え、太陽のありがたさを毎回新鮮に与えてくれます。いかに自然に生かされているかが分かります。

農業もここに来てから初めての体験です。3年程使われていない家周りの田畑を耕すことから始まりました。大量の雪に押しつぶされた土はとても固く、クワを2本折ってしまいました。ならば、と剣先のスコップで土を起こします。使える田畑は1反弱(10a)。気の遠くなる作業です。それでもとにかくやるしかない。何日かして近所のとーちゃんが見兼ねて耕うん機を入れてくれました。もう、ほんとにアッというまに耕してしまいます。笑うしかないくらい。

余った苗をもらって手植えです。田んぼは4畝(4a)だけやってみることにしました。近所のじいばあが手伝ってくれてわりとスムーズに終了。除草剤は使わず雑草は手で取ります。水管理、病気の予防や消毒を経て、収穫。天日乾し、脱穀、粳すり。お米は収穫後も手間がかかります。わずか2俵(120kg)のお米ですがとてもおいしく、それまでの手間暇が報われる思いです。

近所の人たちには随分お世話になりました。周りの人はみんな先生です。ただ、それぞれ言うことが違ったりするのが難ではありますが。畑は彼女にほぼお任せ。若いとーちゃんが畑をやるのは今は珍しく、近所のとーちゃんたちが何かと面倒をみてくれます。手作りの野菜も本当においしい。



▲ 苗を植えるために枠を転がす。  
「ふりなかつたまっすぐ進まない。」

2年目。中古の耕うん機を買い、1反7畝にまで田んぼを増やし、苗作りからやることにしました。平日の昼間は炭焼きがあるので、農作業は朝夕と休日のみ(今はたいていの農家はこうですが)。家の修理などもあるので時間はいくらあっても足りません。6月から4ヵ月間は田んぼの雑草取りに追われます。田んぼは脳裏に焼きついて、寝床で眼を閉じると残像がヒエを追って進んでいきます。う〜ん、寝苦しい。全部の草取りを一通り終わると取り始めの田んぼには早くも雑草がぎょうさん出ている。「ふりだしへ戻る」の気分。この面倒な草取りをしないとどうなるか?手がまわらなかった田んぼは雑草だらけで稲は刈りにくい。茎は貧弱で穂は短く、実入りも少ない。つくった甲斐がなくなってしまう。何を優先させていくか迷いが始まります。



▲ 「みんなで作れば田植えも楽し!!」  
友人が遠くから来てくれます。



成果は9俵半。田植えや稲刈りに来てくれた人へのお礼や親へ少し新米を届けることができました。そうそう、便所の肥やしを撒いた畑で成ったトマトは果物のように甘かった。

3年目の今年。田んぼを1反半にし無農薬有機栽培に挑戦。2トトラック2台分の堆肥を一輪車とソリで田畑に撒くのはえらい難儀でした。パッパパーと撒ける化学肥料がいかに楽がよく分かります。泊まりにきていた6人のお客さんの手も借りて終了。いもち病等にかかりにくいよう植える本数を減らし、間隔も開けました(尺植え)。風通しをよくするのです。残念ながら生ワラを撒いたのと堆肥からのガス発生で根がやられてしまい失敗。去年の約半分、5俵しか穫れませんでした。

自然の営みを生かすため、不耕起栽培や半不耕起もあるとのこと。除草の他の方法も残されている。今度はああして、こうしてとまるで上手くいくような気持ちになって次回の計画を立てております。



▲ 家周りやアゼで刈った草を堆肥置場へ運ぶ。これも大事な肥やし。

### ■田んぼを巡る「迷い」

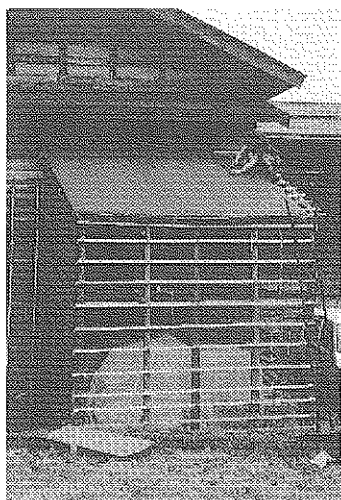
今年は迷ってばかりの1年でした。お米づくりには様々な方法があり、勉強すればするほど何がよいのか分からなくなります。農業



▲ 収穫はお祭り。後ろのハザはその後強風で倒れることになる。

のとらえ方そのものも千差万別です。うちで一番大きな田んぼは独り暮らしのおばあちゃんからタダで借りています。「最初に化学肥料を入れなきゃダメでねえんかのぉ」と何度も言われます。僕はまだ未熟だけれど堆肥だけでいいお米を作っている人はたくさんいる、と説明しても理解しがたい様子。長い目でみれば土を作る必要があるし、より自然の循環の中で農業をやりたいと僕は考えているので気が重い。このばあちゃんはとてもいい人で僕らも好いている。化学肥料もなく堆肥も容易に入れられない頃の苦労話や収穫の不安定さも耳にしているので、ばあちゃんのお気持ちを考えると来年どうするかなおさら迷ってしまう。答えはまだ出せないでいます。

手作業か機械を使うかも迷いどころです。例えば今年手に入れた動力付き除草機。2列ずつタダダッと歯車が土を掻き混ぜていく。手なんかよりずっとしっかり除草するし何倍も早い。でも稲を倒したり根を切ってしまう。そして薬を使わなくても結局化石燃料の機械文明に頼るのかというどこか寂しい現実感。労力が軽減できる機械を安易に不要だとは言えません。僕もその恩恵をしっかり受けている。草刈り機や耕うん機、脱穀機がどれほど時間的にも精神的にもゆとりをもたらしてくれていることか。でもどこかで線を引いていかなければきりが無い。楽をする代償はきつとどこかに出てくる。線引きの基準はお金や欲でない価値観でありたいものです。来年はまた違う方法を試してみよう。



脱穀用にもったコンバイン。雪をしのげる場所がないので造る。『がれる』というワザあり。

## ■百姓

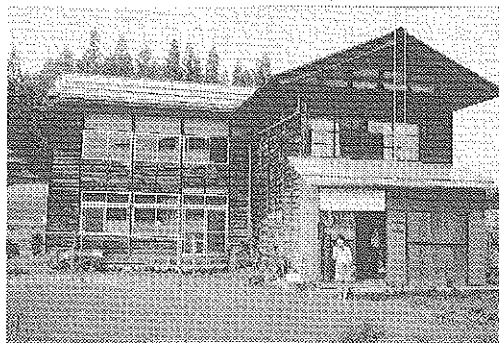
「百姓」という名の通りここではいろんな力が必要になります。農業だけでも土を知り気候を考え、それぞれの作物の特性を知り、各種機械や車を修理し、刃物を研ぐ。土方、クワの扱い、ワラの利用法、肥料の撒き方、その他諸々。お金がなければ家の管理も自分でやるよりない。水周りの修理、くみ取り便所の跳ね返りの改善、窓や臭気口の取り付け、屋根の雨漏りなおし、ペンキ塗り、朽ちてくる壁板、隙間風、戸のたてつけ、柵づくり、水道工事、電気やガスも扱う。車庫のトタン張り替え。脱穀機を入れるための小屋づくり、鶏舎づくりなど、まさに何でも屋。

これらは確かに手間はかかりますが、自分のしていることが生活に直接的であるが故に「生きている実感」があったりします。食べ物を自分で作るというのはその最たるものなのでしょう。なるべくお金を介在させず、生活に必要なものをできるかぎり自分の手で作り考えていくことは、上手く成しえたかの如何にかかわらず「喜び」が伴うようです。

(ふと、森から生活の全てを得て暮らすブナの人たちを思い出します。) この百姓の「喜び」はやってみなければ想像もできないものでした。また、それは熱帯林をはじめ自分の知る世の諸問題をもう一度自分の実感を通して捕らえ直すことを促してくれるのです。

次回は「雪国の巻」です。

迷いながらも農業はおもしろいです。自分のしたこと、しなかったことが作物の成長や次の作業の手間にはっきり現れます。失敗しながらも、できること・分かることが広がっていくのはワクワクします。得られるのは生命の糧。そしてどうしても人知ではたどり着けない領域がある。それがいい。育つのは稲自身で人は環境を整えているにしかすぎない。炭焼きもその意味では似ていて炭化するのの木自身で焼くのは窯。人間は周りの環境を整えるだけ。その原理はたいい単純なものです。水は低い方へ流れる、空気は出口が小さければ火は燃えにくい、斜めにものを置けば倒れる、隙間があれば水や空気は漏れる等々。それらが現象を変えて現れる。そんな「なあんだ」ということが解るのがおもしろい。でもそういった生活の諸現象の原因と結果が眼に見え感じられる中で人間が生きていれば、大きなおごった間違いはしないのではないかという気がします。



▲築40年の借家。古い農家は大きい。夏涼しく、冬は大きな冷蔵庫。

会費・カンパありがとうございました！（敬称略）

井下祥子 鷗川まき 大平浩子 奥村知亜子 加賀瀬みどり 加藤菊緒 北澤新  
佐野徳子 佐藤正行 永田健一 中司 西岡良夫 萩原久美子 米沢興治

\* 康由美さん：100枚の裏返し封筒ありがとうございました！

他にも 大平浩子さん、藤村はるえさんよりいただきました。

ウータン、財政ピンチ! **HELP!**

下の会計報告をご覧ください。98年度への繰り越しが、わずか14万円となっ  
てしまいました。

これは、販売物（ハガキ）の製作費が13万5千円かかり、まだわずかしか販売  
していないなどの理由もありますが、会費・カンパの減収が主因です。

会費の納入が前年度の150人をかなり下回り、またカンパも落ち込んでいます。  
不況の折、大変心苦しいのですが、会費・カンパをよろしく願いいたします。

事務局の方でも、手弁当はもちろんのこと、資金づくりに努力しておりますが、  
もう一押し、お力添えいただければ幸いです。（同封の振込用紙をご利用ください）

\* 「サラワク先住民の絵はがき」「連続講座inとよなか報告集」（各500円+送料  
190円）やTシャツの販売にご協力ください。

お支払いは切手（90円、80円、50円のいずれか）でも結構です。

\* 会員になってくださる方をご紹介ください。パンフレットをお送りします。

97年度会計報告（97.12月末現在）

[収入]	
繰り越し	263,867
会費	3000 × 123 = 369,000
学習会参加費	@800 50,400
カンパ	124,000
講師謝礼	22,500
物品販売	151,160
パネル等賃料	23,000
10周年パーティ収益	2,989
合計	1,006,916円
[支出]	
会報・チラシ等製作費	198,625
送料	185,639
家賃	12,000 × 12 = 144,000
ハガキ製作費	134,680
学習会講師謝礼	75,000
会場費	42,300
賛同金（COP3・アースデイ）	12,000
ビデオ購入	15,000
図書購入費	31,110
報告書（とよなか）製作費	21,561
雑費	26,814
次年度繰り越し	120,187
合計	1,006,916

# HUTAN ACTION SCHEDULE

New Year

'98年度ウータン総会 やりませう! どうぞ  
おこし下さい。

【日時】 2月8日(日) 午後1時～4時 (終了後、交流会もしたいと思  
いがあるのでお時間のある方ぜひ……)

【会場】 中央青年センター [Tel. 06-943-5021]

・JR,地下鉄中央線「森宮駅」下車、中央大通りを西へ歩いて5分。

【ゲスト】 講演: 三国千秋さん(金沢地球の友・北陸大学教授)  
おくにうあき

「ドイツの環境政策」

- CO<sub>2</sub>削減や森林問題一  
フライブルグ市などのようす。

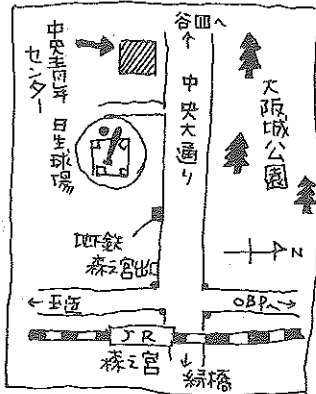
・講演のあとウータンの'98行動方針

、アクションなどの検討を行います。

会員の皆さんのご意見などをどうぞ  
お聞かせ下さい。

よろしくお願ひします。

【問い合わせ】 0722-52-0505(夜間)西岡まで



募集  
しています。



## 求む! チカラコブ!

たとえば、……ワープロが打てる人/パソコンに強い人/英文が読めたり翻訳のできる人/アジア諸国の言語を理解する人/子たちの面倒を見られる人(学習会の際の託児ボランティア、保育資格があると尚嬉し!)/絵を描くのが好きな人/デザインの心得のある人(版下つくれますか?)/封筒のリサイクルが好きな人/整理整頓が少々得意な人/ウータンのグッズや会報バックナンバーを販売するための知恵とルートのある人、拜托。よろしくたのんます!



## ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36  
サクラビル新館308  
「関西市民連合」気付  
Tel.06-372-1561

【一部】300円 【年会費】3000円

【郵便振替】100930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。